

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600111		
法人名	特定非営利活動法人ほのぼの		
事業所名	グループホームほのぼの 1		
所在地	白老郡白老町川沿1丁目553番地の9		
自己評価作成日	平成28年1月13日	評価結果市町村受理日	平成28年3月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600111-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地
訪問調査日	平成28年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所も開設して8年目を迎え当初より居られる方もおり、御家族様との連携も深まっている。家族会等も各御家族様が役割を分担して協力して下さったり、家族間の親睦も深まり馴染みの関係になってきている。又、協力医療機関との連携も定期回診、往診の他に状況によっては院長が都度往診されたり、行事にも参加されたりと、連携も深まっている。町内会からも、防災訓練や、ボランティア等、多彩に交流させて頂いています。裏庭の菜園を毎年楽しみにされている利用者様のためにも関わり合う者皆が一丸となり、その人らしさを大切にし、お互いが支え合い過ごせる様、今後も支援を行う所存です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は住宅街の中に位置し、日頃から地域の方が畑作業の手伝いや、山菜や農作物などの差し入れに訪れるなど、地域の方々との交流が盛んに行われている。また、デイサービスセンターを併設しており、利用者同士の交流も行われている。施設内は木調を基本とした明るい造りで、食事の準備や後片付け、掃除、飾り付けなどは職員と利用者が一緒に行っており、利用者はそれぞれの役割を持って、生き生きと過ごしている。協力医療機関の医師や看護師との連携も取れており、定期的な往診のほか、体調に異変があれば、すぐに駆けつけてもらえる体制が整っている。また、職員の在職期間も長く、管理者は日頃から運営に職員の意見を取り入れ、やる気を促したり、何かあればすぐに相談にのるなど、職員が意欲を持って働ける環境作りを大切にしている。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念とグループホームの基本理念、ケア理念を解る所に展示し共有している。	利用者個々のペースに合わせ、その人らしさを大切にするという理念を職員全員が共有し、日々の業務を実践している。職員の採用時には、管理者から直接理念について説明を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会会長と常に連絡が取れる状況で、町内会にも加入している為、町内会行事等は休憩所と交流したり、ささいな事でも参加し地域との触れ合いを大切にしている。	事業所の畑づくりを地域の方と利用者が一緒に行ったり、日頃から山菜や農産物、海産物の提供、民謡や踊りの訪問、祭典などの自治会行事へ参加するなど、地域との交流が盛んに行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症フレンドシップクラブ(NPO法人)RAN 伴のランナーの受け入れをし、地域の方々に理解が求められる様、活動している。また、行政が主催する「認知症を支える家族の集い」にも知識、経験をいかし、活躍の場に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	サービスの状況を2ヶ月に1回開催日を設けている。それぞれの参加者様より、意見や助言、要望受け利用者が安心した生活が出来る様、向上に取り組んでいる。	定期的開催している運営推進会議には、行政や自治会、家族や利用者も参加し、意見交換を行い事業所の運営に役立てている。また、そこで話し合われた内容については、参加できなかった家族も閲覧できるように会議録を掲示している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	開設時より実情等の取り組みを色々な面で町議のかたや町福祉課、社会福祉協議会の方々に助言や指導して頂きながら関係を深めている。	新たな制度が創設されたり改正があった場合や日常業務の上で不明な点があれば、行政の担当者とその都度確認を行っている。また、行政からの依頼により、町民に対する認知症についての啓蒙活動を行うなど、行政と円滑な協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束委員会を立ち上げ定期的に検討会議を開催している。やむを得ず制限しなければならない場合は全職員で話し合いケアの方法を考えている。	身体拘束委員会を定期的に開催し、身体拘束や虐待に関する知識の確認を行っている。また、外部の研修にも積極的に参加しており、参加できなかった職員には報告書を回覧し、研修会での内容を周知している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し学んだ事を職員会議で発表し勉強している。更に復命書を提出してもらい、ユニット別に照参し、ケアの向上に反映出来る様、努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	さまざまな場で研修機会を設け、それを踏まえて活用し問題視する所や難問事例は、行政の下協力を仰ぎ、必要性を検討し対応しているケースもある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を基に入居の際に重要事項を家族様に説明し、理解と納得を得られる様、配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で、個々の思いや要望を聞く機会を多く持ち出来るだけ希望を叶える要にしている。家族様からの要望、意見がある場合は速やかに話し場の設け、良いケアに結び付く様に検討を重ねている。	家族からの電話や面会などで受けた意見や要望については、個別のノートに記載し、他の職員にも周知を図り、カンファレンスなどでその対応について検討し、ケアに反映させている。また、外部への相談窓口についても掲示し、周知をしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議時全職員の意見提案を聞き運営に反映している。研修会への参加希望については経験、や年数に応じて交替で受けられる様にしている。	各種行事などについては職員がそれぞれ担当し、自ら企画を行い、実施している。定期に開催しているユニット会議には管理者も同席し、そこで職員から出された意見について、積極的に運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が安心して勤務が出来る様な環境や資格修得に向けた支援を行い、個々の努力や実績を考慮し反映、される様に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に個人の努力を受け止め、開催される研修には出来るだけ多くの職員が参加出来るような状況に努めている。中途採用者にはマニュアルを用いて教育・指導を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同業施設の職員と常に交流を持ち研修会を始め、サービスの向上に向けての意見交換をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み予約、見学に来られた際、御本人様の思いや気持ちを聞きとる時間を持ち、理解する様に努めている。また、御家族にも話しを聞き把握する様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族との話し合いの中で御家族の不安・困っている事の話し合いをし、どのような対応が良いのか一緒に考え常に御家族側の立場として何時でも相談をして頂ける様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	拘束委員会を立ち上げ定期的に検討会議を開催している。やむ負えず制限しなければならぬ場合は全職員で話し合いケアの方法を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と御家族の必要としている事項を見極めたうえでサービスも含め対応していく様に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	知人の面会や電話、の様子を報告したり、毎月、ほのぼのの便りで日々の生活、レクリエーション等をお知らせし、絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古い友人の面会や遠方の方への電話を返し疎遠にならぬ様に配慮した環境作りを心掛けている。	併設のデイサービスセンターに通所する友人との交流や、自治会との交流により、友人や地域の方との馴染みの関係を継続できる機会を大事にしている。また、入居前のかかりつけの病院や美容室などへの送迎も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの個性の違いを尊敬し合える様に話題を提供し吟味しながら、孤立しない様な関係を築きあげていく事を支援している。。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	提携病医院に移った祭なども、出来る事は御家族と協力し、相談にも乗っている。また、自宅に戻られた方にも、都度、電話をしたり、気軽に対応出来る様に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の希望や意向は日々の生活の中で把握する様に努めている。生活の中で会話や様子などで思いなどを探り出し、また困難な方は言動や仕種などから思いを読み取るなどしている。	日常の利用者との会話や表情、しぐさ、家族等からの聞き取りなどで希望や意向をくみ取り、事業所での暮らしに反映できるよう取り組んでいる。また、利用者が運営推進会議や職員会議にも参加し、そこでの意見も事業所運営に取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴や生活環境を把握し本人との会話の中からその人らしい暮らしが出来るようにしている。。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の生活習慣や]精神状態を把握する様にし、その日の健康状態に合わせて無理なく、過ごせる様に支援する事を心がけている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や御家族の希望を基にアセスメントを行い、ケア会議で報告職員の意見を聞きながら介護計画書を作成している。	介護計画の作成にあたり、本人、家族の要望や意見のほか、協力医療機関の主治医や看護師などの意見も取り入れ、協同で作成をしている。また、本人の状況に変化があった場合、随時、現状に即した介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にその日の様子や出来を業務日誌に記入し、申し送りをして情報を共有し話し合い、介護計画書を見直したりしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の希望や必要に応じて通院、買い物ドライブ等の外出支援を随時行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の力量に応じて町や町内会が主催される行事に参加したり地域に参加出来る機会を設ける協力が出来ている。又、演芸ボランティア、婦人部の来訪があり交流を深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医に状況の変化を報告しながら支援している。受診内容は「医療ノート」に記入し看護師、職員が共有している。	皮膚科や眼科など、利用者のかかりつけ医への受診希望があれば、通院の付き添いを行っている。協力医療機関の医師による往診も頻繁にあり、利用者からの信頼も厚い。また、事業所は医師や看護師との連絡ノートを活用し情報共有に努めている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、かかりつけ医院の看護師が来訪して、日常の健康管理に努め把握し医師のしじを仰いでくれている。また、本人の訴えは必ず看護師に伝え指示を仰ぎ対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供書を作成し、スムーズに安心して入院生活が送れる様にし又、出来る限り病医に面会に行き、予後のケアに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居前に必ず、重度化した場合に於ける対応に関する方針を作成し同意、協力をお願いしている。	入居の段階で、家族に対し利用者が重度化した場合の対応についての確認と事業所でできること、できないことについて説明を行っている。入居後に重度化した場合については主治医とも相談の上、家族への説明を行い、適切な対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えての、講習会、訓練を事前に行ったり、事故発生時パニックにならない様、緊急マニュアルを作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会に協力を仰ぎ、消防署指導の下、防災非難訓練を実施し設備や使用法を身につけ、避難場所等、迅速適切な行動の取り組みをしている。	近隣の町内会の方の協力を得て、消防訓練を実施している。防災に関する自主点検も定期的に行い、火災の発生防止に努めている。また、津波などにより避難が必要となった場合の利用者の移送方法や避難場所についても決めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方のプライバシーをの侵害が無い様、一人ひとりに合わせた関わり、傾聴を大切に記録等は所定の場所に保管している。	入浴や排泄介助については基本的には同性介護としているが、異性介護を行う場合は、あらかじめ了解を得てから行っている。職員研修では、プライバシーや接遇に関する研修を実施し、利用者の尊厳を大切にケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、その人の様子や表現・言動をなるべく見逃さない様、理解力に配慮しながら自己決定力を引き出せる様、寄り添いケアや傾聴をこころみ思いが話しやすい環境図くりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人ひとりの自己決定を出来る限り尊重し、無理の無い様に日々を送って頂いている。希望が叶わない時などは、理解が出来るよう説明したり時をずらしたりと配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身支度が一人で出来ない時には支援している。自分で選べない、季節感が解らない方には支援し状況に応じた対応をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事会、レク、誕生会など又、状況に応じ利用者の希望の嗜好を摂り入れたり、準備や調理、後片付けを一緒にやり食材も裏の菜園に収穫に行っている。	食材の買い出しや、食事の下ごしらえや盛り付け等の準備、食事の後片付けも、協力をしてくれる利用者と一緒にしている。また、事業所の畑で収穫した野菜やいただき物の山菜や魚介類などは利用者と相談しながら献立に反映させている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分を毎日チェックし記録している。体調や栄養バランスを把握し主治医に報告しその人にの状況に応じた対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの方の状況に見合った見守り、一部介助を行い食後毎にケアをしている。歯科主治医に都度、相談したりアドバイスを参考にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に一人ひとり記入しパターンを把握し対応している。また、ほとんどの方がトイレ通所しているが、夜間帯状況によりポータブルトイレ使用の方もおり自立に向けた対応をしている。	声掛けが必要な利用者には、個別の排泄チェック表を作成し、排泄パターンを参考にしながら声掛けを行い、可能な限りトイレでの排泄を促している。夜間、ふらつきなどで移動が難しい方については、居室内にポータブルトイレを設置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日一回は、体操をするなど体を動かす事に気を付けている。又、栄養士が作成したメニュー表を基に食物繊維に気を配っている。排便確認表を見て状況に合せ、かかりつけ医にも相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴は個別に時間・曜日を決めているが、看護師による処置や用事がある場合には、その方の都合に合せ対応している。	ある程度、入浴日を決めているが、利用者が希望する日や時間に入浴することができる。また、畑作業や散歩などで汗をかいたら、シャワーや入浴ができるよう臨機応変に対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り職員見守りの中で自由にゆったりと、その人がくつろぎが持てる様、配慮している。光、音等にも気を使い、安心感を与える様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報、受診記録をファイルし、変更時など職員が解る、周知している。又、病状の変化時はかかりつけ医と連携を何時でも取れる状況にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の能力、生活歴、適応力に合せ役割が発揮出来るような役割を無理の無い様に日課とし、感謝の言葉を都度、声掛けている。レクレーション時間を多く持ち気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族の方にも協力を仰ぎ又、行事、レクなど状況に応じ、出来るだけ、多く外出する機会を設けている。	天気が良い日は散歩に出かけたり、外食や花見、温泉入浴、ドライブ、町内会のイベントへの参加などの外出支援を積極的に行っている。また、利用者宅への外出送迎や法事への出席の付き添いも行うなど、個別の外出支援も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その人の希望、管理能力に応じ所持されている方もいるが、事務所で管理している。特に大きな金額に関しては事務所に管理され、必要な時は都度対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所、スタッフルーム内の電話は何時でも気軽に使用出来る様、配慮をしている為、毎日連絡が来る方もいる。また携帯電話を持たれている方も数名いらっしゃる。更に、遠方の方との絵手紙や手紙のやり取りを楽しまれてい人もいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事、レクレーション四季折々のイベント写真を展示し、個々が行った習字や作品も飾っている。都度、観賞し思い出を語っていただける様、時が立って忘れていた事にも配慮しゆったりと、毎日が送れる様に支援している。	リビングには、家庭的な数種類のソファやイスを用意し、利用者が馴染みの場所で皆と一緒に居心地良く過ごせる配慮をしている。キッチンリビングに面しており、炊事の匂いや音が伝わり、自宅で過ごしていたような生活感が感じられる。また、季節感のある飾り付けを利用者と一緒に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースには皆でテレビ観賞が出来る様ソファや移動時、何時でも休める様リクライニング、一人掛けソファなど自由に使用出来る空間もあり雑誌なども置いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、愛着の有るものを持参され家族の方や御本人様の意見を重視したお部屋にしている。	入居前に本人や家族と相談し、ソファやベッド、鏡台、仏壇、時計、絵画、写真など、できるだけ思い入れや馴染みのある家具や小物を持ちこんでもらい、居心地の良い居室となるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出入り口のスロープ、共同スペース、トイレ、脱衣所、浴室等全てに手すりが付いている。また、床も段差無く安全制を重視している。平屋造りとの事も有り大きなベランダからは、景色が良く見え外気との触れ合いも活かしている。		